

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900078		
法人名	株式会社 ファミリーホームなか		
事業所名	グループホーム 五行の杜		
所在地	栃木県真岡市大和田288		
自己評価作成日	平成30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月にオープンした施設で、自然あふれる環境と木材を多用したぬくもりのある建物です。隣接した畑ではいろいろな野菜を栽培しており、ご利用者が土に触れあいながら、収穫を楽しみ、四季を肌で感じる事が出来ます。理念として、「いつまでもその人がその人らしく楽しみを持って生活できるように支援します」と掲げ、利用者様一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添いながら支援いたしております。また、ご家族や地域の皆様と交流を深めながら、地域に根付いた施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員のサービスの質の向上に向けた意欲が高く、利用者の思いを大切にしている。利用者の言動や表情及び家族の情報等から思いを汲み取り、「その人がその人らしく楽しみを持って、生活することができるように支援する」との理念の実践に向けた支援をしている。また、職員・利用者・家族等が関わりながら、「一日一笑」できるように取り組んでいる。
 ・利用者との触れ合いや、家族等との密な情報交換により、利用者本人が生活の中で培ってきた経験やスキルについて把握し、日々の生活の中で利用者の力を自然に活かせるように工夫している。野菜の収穫時や食事に関する手伝い等に見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に事業所として、基本方針理念を定め、掲げている。常に理念を念頭に置き、全職員が同じ視線でサービスの提供が出来るよう話し合いをしている。	「その人らしく楽しみをもって生活できるように支援する」という理念とともに「一日一笑」という具体的なスローガンを掲げ支援している。申し送り時やスタッフミーティングを通して、全職員の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域の祭り、育成会による行事などに参加することにより地域の方との交流を大切にしている。公民館行事にも出来るだけ参加させていただいている。	日々の散歩の中で、地域の方と名前を呼びあう関係となっている。また、小学校や育成会行事等での交流だけでなく、地域の子供たちの来所があり、日常的に子供たちと触れ合う機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着事業所として、保険者主催の認知症介護者教室の講師などの協力を通じ、地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じ入居している方の状況を開示し、災害時の協力体制を確立し、更に外部からの意見を頂くことにより、施設運営の向上に繋げている。	会議メンバーに加え、駐在所の方の参加もある。駐在所とは日常的に関わりがあり、利用者は安心して散歩することができている。また、会議で散歩経路に一休みできるベンチの設置の要望が上がり実現にいたる等、意見が反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いきいき高齢課や地域包括支援センターと連携をとり、利用者状況や報告などを行い、運営に関するアドバイスや指導を頂いている。	事業所からの報告や相談にアドバイス等を貰うだけでなく、市の認知症講習の講師を職員が行うなど、情報の共有や協力体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のためにやむを得ず施錠したことはあるが、職員間で十分な話し合いの元での施行であった。事業所で身体拘束マニュアルを作成し、内部研修も2回にわたり行うことで、職員は身体拘束について理解している。	研修等を通じ、身体拘束についての意識向上を図っている。マニュアルを作成するだけでなく、周知のための内部研修を実施したり、家族とも話し合うなど、職員意識の涵養を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に並び、施設内での研修により、職員の認識はあるものの、何気ない日常の中での会話内容において、修正しなければならないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人暮らしである利用者様に対し、ご家族から今後の相談をされ、権利擁護についての説明を行い社会福祉協議会および包括支援センターにつなげたケースがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけわかりやすい説明を行い、契約の際には十分な時間を使っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置し、自由に投函できるようにしているが、今の所利用がない状況。面会時などでご家族が来訪された時には、必ずご意見を聞くようにしている。	離れて暮らす家族も安心できるように、来所時に話し合うだけでなく、毎月、家族へ手紙等で生活状況を知らせている。利用者や家族が「いつでも話を聞いてもらえる」と安心できる環境を心掛けており、得られた意見や思いを運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として日々のコミュニケーションを大切にしている。毎日の申し送りの際にも、職員の言動に常に注意を払っている。	管理者は職員の育成を考えており、職員には積極的な自己研鑽意欲が見られる。職員間や管理者とのコミュニケーションは円滑で、意見を反映しやすい雰囲気ができている。	徹底した情報の共有を図る意味で日々の職員間の申し送り時間の工夫をすることや、職員の自己研鑽意欲を満たす研修の計画を図る等、更なる人材育成を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻りに施設に立ち寄り、管理者や職員に声掛けをし、職場環境が健全であるように配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意欲を尊重し、外部研修希望者には積極的に参加を促している。資格取得のための講習などにも参加できる体制を出来るだけ整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で行われる研修会や、グループホームでの研修会や交流会に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接における情報を元に、職員間での情報交換を行いながら、ご本人の様子をじっくり観察するようにしている。声掛けにも十分配慮してラポールを形成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ親身に、困っている状況を聞き取り、ご家族のご意向に沿ってアドバイスするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に介護保険の情勢や近隣の資源を把握しいつでも情報提供が出来るように研鑽している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、毎日の日常的な作業（洗濯や掃除）を一緒に行うことにより、共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の活動を通じ、ご本人とご家族がより良い関係性が保てるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が面会に来た時には出来るだけ家庭的な雰囲気でお迎えし、気持ちよく来訪できるよう気をつけている。	利用者との関係や面会者の名前を覚えて、気軽に話しかける等、面会に来やすい雰囲気づくりを心がけている。自室で話したり、ダイルームを活用したりして、関係の維持や楽しめる雰囲気に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やその人なりの希望を聞き入れ、席順や声掛け時に十分配慮している。できるだけ一緒に楽しめる場面を多く作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要なサービスの情報提供をすとも、利用終了後も必要時には相談支援をしている。年賀状のやり取りをしている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、バックグラウンドの確認をしっかり取り、居心地の良い空間を作る為、可能な限り意向を実現している。	家族からの情報及び日頃の言動や表情をもとに、利用者の真意を汲み取るように努めている。生活の中では利用者の個性を尊重しつつ、周囲との調和にも配慮しながら、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話や、ご家族からの聞き取りを主に、ご本人にとって何が適しているか把握出来るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、出来るだけご本人のペースで生活できるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換やミーティングで個別に検討し型に嵌まらないプランを作成するようにしている。	日々の記録をもとに、積極的な意見交換を行なうことで、具体的な個別プランを作成している。計画と実施状況及び評価は、詳しく記載され把握し易いようにファイルされている。一人ひとりの支援状況を管理し易いように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体重測定記録・バイタル表・食事摂取量・オムツ利用表・排泄表などを十分に活用し、職員間の情報交換により実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で情報を共有し、ご本人の意向やご家族の状態に合わせてサービスの調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの特徴上なかなか地域の資源を活用するのは難しいが、各ボランティア事業や、地域の協力を頂き、一緒に参加しながら活気のある毎日を送っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診はご家族と協議し、負担が出来るだけ無いように配慮している。バイタル表や健康状態の情報提供を行い医療機関と連携をとっている。	かかりつけ医での受診の際は、バイタル表や必要な情報をメモにして家族に渡したり、事前に医療機関に電話で情報を伝えたりして、連携を図っている。また、付き添えなかった家族には受診状況を報告するなど、安心できるように配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師不在で歯があるが、必要に応じ医療機関の看護師に直接連絡し、支持を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートを活用している。入院時に歯方法に医療機関を訪問し、入居中の様子を情報提供している。また、カンファレンスにも積極的に参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やご家族来訪時に出来るだけ具体的にグループホームでは医療的行為が出来ないことを説明し、急変時や終末期にどのように対応するか検討して、書面にて筋道を立てている。	入居時には事業所が対応できることについて説明し、家族と具体的な対応方法について話し合い、急変時や終末期の方向付けを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、マニュアルに沿って対応できるよう体勢を作っている。ミーティングの際にスタッフ間でも共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施。また、地域の防災訓練にも参加し、常に職員にも認識させている。	定期的な避難訓練には全職員が参加の機会を得られるようにしている。連絡網は整備されており、備蓄品がある。地域災害時の第一次避難場所に指定されており、地域の防災訓練には職員が参加している。	災害時の協力体制等、地域に協力をお願いしたいこと、事業所として地域に貢献できることを文書化し地域との協力関係を明確にされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても、ご本人のプライドを傷つけないように常に声掛けには十分な配慮をしている。入室時やトイレ誘導にも必ずご本人の意思を確認してから行うようにしている。	トイレへの声かけや入浴時の介助位置など、プライドや羞恥心及び周囲の状況等に配慮しながら支援している。利用者自身が自分でできることについては、自分でやろうとする意欲を持てるように声かけ等について工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を多く作っている。お茶なども出来るだけ好きなものを飲んでいただくように準備し、『何が食べたいですか』を毎日の会話にも取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気やその日の気分により、行事を取り込むこともある。特におやつはご利用者の希望に沿うように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は基本的にご自分で選んでいただいている。また、毎月ネイルボランティアや散髪時にも希望を伝えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうに見えるように彩りや盛り付けに工夫をしている。出来ることはできるだけ手伝っていただくが、なかなか調理までは至らない。	畑での収穫や地域住民からの差し入れ物等、季節の食材を積極的に取り入れている。彩りや盛り付けに配慮したり、利用者の生活歴の中から得意なことを活かしてもらえるように、手伝う場等の設定を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態及び食器も、個々にあったものを提供している。残食があった場合は、『何故?』かを職員間で検討する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かせない。ご利用者様も自ら積極的に歯磨きを行っている。定期的に訪問歯科診療を利用しているご利用者様は6名いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的に誘導することで紙おむつ・リハビリパンツ・パットの使用量が激減している。	排泄記録やバイタルデータをもとに、排泄パターンや習慣を把握するとともに、リハビリパンツやパットの使用数及び失禁回数減少傾向等を数値化している。職員は利用者の状態を共有し支援することで、排泄の自立向上に寄与している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、何日も排泄がない方の対応を医療機関に相談するなど配慮している。食事摂取量や水分摂取量と合わせて常に経過観察を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向が最優先ではあるが、入浴拒否される方に関しては、職員同士で相談し情報交換しながら工夫し、できるだけ定期的に入浴できるよう誘導している。	体調や意向に応じて、入浴を行っている。機械浴も導入しており、脚力等低下時においても、利用者が安心して入浴を楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれで、その時によって時間帯は変わることもある。声掛けはするが、見たいテレビが合ったり、話が弾んでいる時はご本人の意思に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各服薬状況(主治医の処方箋)に忠実に管理している。誤薬が無いように細心の注意を払い、服薬に関しての症状の観察も必須である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の残存能力を見出し、十分な評価をしながら日常生活を過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば、出来るだけ外出できるような体制を作っている。また、ご家族にご本人の意向を伝え、職員よりご家族のほうが対応するのに適している時には、ご協力を頂いている。	日常的に散歩に出かけている。利用者同士仲が良く、お互いに声をかけあい、外で過ごす機会を増やしている。田園地帯で近くにスーパー等がないため、車を利用し買物に行く際に外出をしている。月一回は、花見など季節に応じた外出を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が所持金を管理している。外出時や欲しいものがある時には確認し、購入している。外出時にご自分で支払うことはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に本人や家族の希望により、携帯電話を所持されている方もおられる。利用が困難な時には対応している。手紙の差出も必要に応じ援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木材を多く使用しており、採光に配慮している。居室の窓を開放すると施設内に風が流れ、すがすがしい。湿度、温度は常にチェックし、空調に注意している。	窓からは山や川など豊かな田園風景が眺められ、季節感が感じられる落ち着いた環境である。散歩等で見つけた季節の花々を飾ったり、壁に皆で作った作品を飾る等、季節や生活を感じさせる空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	すべて個室対応であり、一人で部屋にいるのも、リビングにいるのも自由。気の合う仲間とお互いの部屋で話をする場面もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室には自由に私物を持ち込んでいただいている。タンスや写真、テレビ、椅子など、ご本人が使い慣れたものを使用していただいている。	介護用ベッド等は事業所の備え付けではあるが、居室内は思い出の写真を置いたり、テレビや椅子等、本人・家族等により持ち込まれたものが自由にレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアを開ければ、いつでも職員の顔を見られるような環境。声をかければ、すぐに職員が飛んでくる安心感がある。トイレも角角に設置しており、迷いにくい配置である。		